

第75 萩句会報告」 (順不同)

日時 2015年8月10日(月) 14時～17時

兼題「蚊遣り」

- 川井素山 ○隅田川満ちて夜涼の屋形船
ハイビスカス石文飾る千羽鶴
珍品を探がす夜店の蚊遣かな
指揮棒を振る子撮る親夏休み
- 保井寶正 ○不揃いの初蟬聞くや雨の後
玉音を赤禪で聴く夏の果
ペランダの鉢植えの茄子紺一つ
戦時下の粗末な椅子に蚊遣香
- 青木英林 ○海岸に人集りせる西瓜割
覚酔の夜半下弦の月見かな
人気ない古刹の池に蓮の花
蚊遣り焚きお化け出現待つ二人
- 後藤克彦 ○蚊遣り火の風向き正す夕餉かな
さうめんの流しの箸に力込め
町おこし競ふ記録の暑さかな
夏見舞いなるべく軽き品選ぶ
- 佐久間喬 ○蚊遣火の煙一筋セレナーデ
ジーと鳴き虫の息なる蟬拾ふ
朱鷺の子の餌を啄ばむ夏の夕
足刺され後の祭りの蚊遣香
- 丸山酔宵子 ○白足袋と袈裟で托鉢大暑かな
鐘楼の崩る残骸長崎忌
全ふす蚊取線香灰となる
向日葵の葉陰にそろり羽根閉じて

- 菊地崇之 ○稻妻や下宿の窓辺^{おも}男女二人
耳かざすつくつく法師樹海かな
駆け込んだトイレに香る蚊遣草
輝いてノースリーブや白き肌
- 牧野里山 ○切通し暑さを一時忘れさす
地藏堂蚊取り線香吊るしおり
山裾のお花畑に風抜けて
うたた寝に仄かに香るかやりかな
- 吉田啓悟 ○炎天やバス停見えてなほ遠く
相照らす人去りゆきて蚊遣香
わが脳のの如くに乱れ五月闇
汐辛きこゑなつかしや夏帽子
- 山本草風 ○深き森万古の神昼寝かな
渦潮を遠くにおいて蚊遣りかな
干梅は手間暇妻の旨味かな
^わ吾も妻もふたおや思い盆のすし
- 金森純女 ○夏のれん掛ける女将の白き腕
新蕎麦をたぐる男の箸づかい
路地裏の風鈴いずこ昼散歩
新妻の加減を知らぬ蚊遣りかな
- 中山志津久 ○傘踊り鈴音あでやか因幡かな
とぐろ巻く蚊取線香倉の中
まほろばに鎮まるみ魂旅行脚
つり忍ぶ音にひかれて汗が引く

次回 「萩句会」

日時 2015年9月4日（金）14時～17時

兼題『かかし』

当季雑詠三句 計四句